

1. 評価報告概要表

作成日 平成20年6月1日

【評価実施概要】

事業所番号	1172000307
法人名	株式会社日本ケアリンク
事業所名	せらび鳩ヶ谷
所在地	〒334-0001 埼玉県鳩ヶ谷市桜町6-11-24 (電話) 048-286-6514

評価機関名	社会福祉法人 埼玉県社会福祉協議会 福祉サービス評価センター
所在地	〒330-8529 埼玉県さいたま市浦和区針ヶ谷4-2-65 彩の国すこやかプラザ
訪問調査日	平成20年5月26日

【情報提供票より】(平成20年5月12日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成15年9月1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	21 人	常勤	13人, 非常勤 8人, 常勤換算 17.2人

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨造り 2階建ての1階～2階部分
------	----------------------

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	68,000 円	その他の経費(月額)	40,000円 + 実費	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 (340,000円)	有りの場合 償却の有無	有	
食材料費	朝食	230 円	昼食	460 円
	夕食	460 円	おやつ	0 円
	または1日当たり 円			

(4) 利用者の概要(5月12日現在)

利用者人数	16 名	男性	3 名	女性	13 名
要介護1	1 名	要介護2	5 名		
要介護3	7 名	要介護4	3 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 78 歳	最低	64 歳	最高	90 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	さいたまホームクリニック
---------	--------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当ホームは、周囲の住宅に違和感無く溶け込んでいるグループホームである。母体法人は複数の有料老人ホームと県外に3か所のグループホーム事業を展開しており、職員育成のため、グループ内外での研修や資格取得に熱心に取り組む姿勢が伺える。また、ホームの職員の年齢層は幅広く、利用者と時代を共有できる世代の職員も多くいる。利用者の日々の暮らしを豊かにするための支援や、個別のきめ細かなケアは、利用者の穏かな様子につながっており、地域との関係も良好に築かれつつある。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	<p>前回評価での主な改善課題とその後取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回の外部評価の結果を受けて、改善課題について話し合いながら、改善に向け具体案の検討、実践へとつなげている。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>ホーム長、副ホーム長が中心となり、職員全員で日々のケアを振り返っている。また、ミーティング等で意見を出し合いながら自己評価に取り組んでおり、外部評価を積極的に活用しようという前向きな姿勢が伺える。</p>
重点項目	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)</p> <p>主なテーマ(ホームの紹介・火災時の対応・服薬、点眼について等)を決め、地域の消防署や薬局の協力を得ての運営推進会議をすでに3回開催しており、メンバーには利用者、利用者家族、民生委員、地域包括支援センター職員などが参加している。</p>
重点項目	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)</p> <p>家族の来訪時には積極的な声掛けにより、利用者の日頃の様子を伝えるとともに、毎月ホーム便りや金銭出納帳などを送付している。また、家族会を開催しており、来訪時や電話連絡等を通じて、常に家族が意見を出しやすい雰囲気づくりに努め、それらをホームの運営に反映させている。</p>
重点項目	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>自治会に加入しており、日常的に近隣の人たちへの声掛けをしたり、ボランティアも受け入れている。また、利用者が図書館を利用されている事などから、地域の人々と折に触れて交流している。公民館等への挨拶まわりを通じてホームを広報し、地域行事の情報収集にも努めている。</p>

2. 評価報告書

( 部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	母体法人の理念を柱にし、住み慣れた地域での暮らしの継続支援と事業所と地域との関係を築きながら、地域密着型サービスの役割を意識した理念となっている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	全職員は理念を日々のケアの中で掘り下げ、話し合いながら具体的なケアへとつなげている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入しており、普段から散歩や買い物の際、近隣の人と挨拶や言葉を交わしたり、ボランティアも受け入れるなど、地域の人々と折に触れて交流している。公民館等への挨拶まわりを通じてホームを広報するとともに地域行事の情報収集にも努めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	ホーム長、副ホーム長が中心となり、職員全員で意見を出し合いながら自己評価に取り組んで、日々のケアを振り返っている。また、前回の外部評価の結果を受けて、改善課題について話し合いながら、改善に向け具体案の検討、実践へとつなげている。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議をすでに3回開催している。メンバーは、利用者、利用者家族、民生委員、地域包括支援センター職員などで構成され、毎回テーマを決め、議題に沿って会議を進めている。		運営推進会議の内容としては、今後、地域に開かれたサービスとしての質の確保のため、外部評価の結果や、参加メンバーをモニター役として改善経過の報告などを話し合う会議となるような取り組みを期待したい。また、年間計画を立てるなどして、定期的開催し、メンバーが参加しやすい工夫をしてみたい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市担当者とは、折に触れ事業所の実情やケアサービスの取り組みについて伝える機会がある。また、介護相談員も受け入れている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	家族の来訪時には積極的な声掛けに努め、できるだけ利用者の日頃の暮らしぶりを伝えられるようにしている。また、ホーム便り、金銭出納帳などを毎月送付し報告している。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会を開催している。来訪時や電話連絡等では、常に家族が意見を出しやすいよう雰囲気づくりに努め、出された意見をホームの運営に反映させている。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	利用者ごとに担当職員が決められており、やむを得ず異動や離職がある場合にも、十分な引継ぎと時期について最善の努力をしている。また、運営者は職員アンケートの実施により離職軽減のための取り組みに努めている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	運営者は、職員の育成と質の確保、向上に向け年間計画を立て、法人内外の研修を受けられる体制を作っている。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	埼玉県グループホーム協議会に加入しており、地域の他事業所とも日頃から相互訪問などを通じ交流がある。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>サービス利用開始においては、事前に家庭訪問や、本人、家族との相談や助言などにより十分な信頼関係を築くよう努めている。また、体験入所もすることも可能である。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>年長者である利用者を尊重しながら、それぞれの得意分野での役割や楽しみ事で力量を發揮できる場面を作り、共に暮らす者同士としての関係を築いている。</p>		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>担当職員は、利用者との日々の関わりの中で、一人ひとりの思いや希望の把握に努めている。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>日々の関わりにより、本人、家族の思いや意見を聞き取りながら、職員間でも意見交換をするなどし、それらを本人本位の介護計画の作成に活かすよう取り組んでいる。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>介護計画は定期的に見直すとともに、状態に変化が生じた際は、随時見直しするようにしている。また、月1回ごとにモニタリングを実施している。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	公共交通機関を利用した外出支援や、家族にも参加してもらえる日帰りバス旅行を実施している。また、本人や家族の状況に応じて、通院などの支援については柔軟に対応している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	提携医による月2回の往診の他、本人や家族の希望するかかりつけ医の受診についても、家族が付き添えない場合は職員が代行する仕組みになっており、契約時にその旨を説明し同意を得ている。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	ホームでの看取り経験は無いものの医療支援体制を整え、本人や家族と話し合い意志を確認した上で同意書を作成し、職員はその準備に取り組んでいる。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者の尊厳を大切にした対応を常に心掛けている。個人情報については、インターネットのブログへの写真掲載等には了解をとり同意書を得たり、記録等においても個人情報の取り扱いに注意している。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人ひとりが希望に添った個性のある日々の暮らしを送れるよう支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材は一括購入となっているが、献立をアレンジするなど工夫し、利用者個々の力を活かしながら食事の一連の流れを進めている。また、1階のユニットでは利用者の提案により、昼食のみ週3回宅配のお弁当を楽しんでいる。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週2回を目安にしながら、本人の希望に応じて柔軟に支援している。夜間の入浴希望が無いことから、時間帯は日中のみとなっている。夏場は随時シャワー浴も行っている。また、利用者の重度化に伴う身体レベルの低下に合わせた入浴支援について検討中である。		利用者の重度化や看取りへの取り組みがあることから、今後身体レベルが低下した場合の入浴支援が求められる。職員の負担にならないようにするためにも、浴室の設備や職員体制について継続的な検討と具体的な取り組みを期待したい。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	暮らしの中で、力量に応じた出番や役割を作っている。ボランティアの受け入れにより、太極拳やペン習字を楽しむ方や、地域の公共施設でのカラオケに通う方、図書館の貸出し本で読書される方等、一人ひとりに合わせた支援を行っている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日常的に買物や散歩に出かけている。また、職員が所用の折にも利用者を誘うなどし、外出の機会を作るよう配慮している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関は利用者の安全面への配慮から、家族の了解を得た上で施錠されている。また、利用者の外出の希望がある際は、職員が付き添うなどの対応により支援している。		今後は、利用者の安全を確保しながら、さらに自由な暮らしを支えるための取り組みに期待したい。
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	事業所を拠点とした災害訓練を、地域に案内し実施している。2階非常口には緊急避難用のスロープが設置されており、屋内はエレベーターと階段が併設されている。また、廊下に配されたベンチ下にはヘルメットなどが収納されている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分摂取量はきちんと記録され、職員が情報を共有している。特別な管理が必要でない利用者の水分摂取量は1800cc/日を目値とし、便秘や脱水の防止に努めている。		
2.その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	対面式キッチンがあるリビングダイニングのスペースは窓が広く、明るく開放的な雰囲気である。玄関には敷地内の庭の草花や観葉植物が飾られ、共用空間にはソファやミニテーブルが配置され、それぞれ自由に過ごすことができる工夫がなされている。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の馴染みの物品が持ち込まれており、それぞれにその人らしさが感じられる個性のある居室となっている。		